

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本専攻博士後期課程では、本学の定める修業年限以上在学し、次のような能力・資質を備えた上で、7単位（修士課程における修得単位数を含まず）を修得し、かつ博士後期課程にふさわしい研究能力の修得に必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて、学長が課程修了を認定します。課程修了が認定された者で、「生活環境学領域」を主として専攻して、生活環境学に関するディプロマ・ポリシーを満たした者に博士（生活環境学）を、「生活文化情報学領域」を主として専攻して生活文化情報学に関するディプロマ・ポリシーを満たした者に博士（情報メディア学）の学位を授与します。</p>		<p>本専攻博士後期課程ではディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような学ぶ分野について、多様な方向からアプローチしていくとの方針に基づき、カリキュラムを編成するとともに、研究指導を行います。</p> <p>極めて高度な専門知識と技能および研究能力を身につけるため、「生活文化情報学領域」と「生活環境学領域」の2つの領域に分かれ、「生活文化情報学領域」には生活文化学、生活美学、生活行動学および生活情報学分野の4分野を、「生活環境学領域」には生活環境学、生活材料学および環境デザイン分野の3分野を設けます。学ぶ内容は、文系・理系・造形系に広く及びます。各自の研究への取り組みを通して、ディプロマ・ポリシーを達成します。学んだ集大成として、博士論文に結実できたかどうかで、その達成度を評価します。指導教員は、研究課題の決定、研究計画の作成への指導助言を行い、博士論文の作成を指導します。</p>	<p>本専攻博士後期課程は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた人を求めます。</p>
1. 知識・理解	1-1	生活文化情報学に関わる事象に対して、独立した研究者として能力が発揮できるような、文化的・社会的な観点からの極めて高度な専門知識を有している。	<p>1. 知識・理解 入学後、生活環境に関して、文化的、社会的、科学的、工学的、造形的な観点からの極めて高度な専門的な知識を修得し、研究を遂行しようとする人</p> <p>2. 技能・表現 生活環境を構成する事象に対し、論理的、定量的なアプローチから学び、研究を遂行しようとする人</p> <p>3. 思考・判断 新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決しようとする人</p> <p>4. 態度・志向性 社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度や生涯にわたり、自立して研究し、学び続けるための意欲や向上心を身につけようとする人</p>
	1-2	生活文化情報学に関わる事象に対して、独立した研究者として能力が発揮できるような、科学的・工学的な観点からの極めて高度な専門知識を有している。	
	1-3	生活環境学に関わる事象に対して、独立した研究者として能力が発揮できるような、文化的・社会的な観点からの極めて高度な専門知識を有している。	
	1-4	生活環境学に関わる事象に対して、独立した研究者として能力が発揮できるような、科学的・工学的な観点からの極めて高度な専門知識を有している。	
2. 技能・表現	2-1	生活文化情報学に関わる事象を研究者の視点から論理的に分析し、問題の解決につなげ、成果を発表することができる極めて高度な技能を有している。	<p>「生活文化情報学領域」</p> <p>①生活文化学分野 文化資源や伝統産業の調査研究を通して、生活環境の文化論的背景を解明するなど、生活文化論の研究とともに、生活美学（生活環境の美的価値観）も研究することができます。</p> <p>②生活美学分野 身近な日常生活における趣味・嗜好を重視した、より現代的な生活美学を研究します。</p> <p>③生活行動学分野 現代生活の重要な部分を占めている「購買行動と余暇行動」に視点をあて、生活環境の中で人間行動の実態および動向の分析研究を行います。</p> <p>④生活情報学分野 生活情報の構造や機能を分析し、処理のためのアルゴリズムの解析研究、システムの設計を中心とした生活情報の処理を系統的に研究します。</p> <p>「生活環境学領域」</p> <p>⑤生活環境学分野 身近な環境としての衣環境、基本的な生活行動の場としての住環境を中心に、環境と人間との関係や人間の対応などについて研究します。</p> <p>⑥生活材料学分野 生活環境を構成する材料全般について、天然材料から合成品まで、その特性、機能発現のメカニズム、加工、環境による状態変化などを複合的に研究します。</p> <p>⑦環境デザイン分野 住宅から都市空間までの建築デザイン、造園や自然景観の設計、自然と建築群とを融合した都市デザイン、これらの空間の安全性を追及する構造デザイン、光・熱・音などを活用した環境デザインを中心に研究します。</p>
	2-2	生活環境学に関わる事象を研究者の視点から論理的に分析し、問題の解決につなげ、成果を発表することができる極めて高度な技能を有している。	
3. 思考・判断	3-1	生活文化情報学に関する新たな課題に対し、研究者の視点から論理的に考え、問題を解決する極めて高度な思考や判断の能力を身につけている。	
	3-2	生活環境学に関する新たな課題に対し、研究者の視点から論理的に考え、問題を解決する極めて高度な思考や判断の能力を身につけている。	
4. 態度・志向性	4-1	社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する研究者としてふさわしい深い態度を身につけている。	
	4-2	生涯にわたり、自立して研究し、学び続けるための意欲と向上心を身につけている。	

※ディプロマ・ポリシーについて、各項目のうち少なくとも一つの能力を身につける。